

「逃げた先にある安心。」 を地域社会へ、皆様と共に...

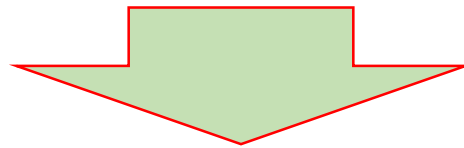
非営利型一般社団法人かたつむり
障害者就労継続支援B型事業所 @(@)かたつむり
所長 大西智史
目標工賃達成指導員 内山正昭

東日本大震災から**10年**を迎えます。

“被災地”の復興はまだ終わっていませんが、**10年**の間に地震・台風・水害などの天災は何度も起こり新たな被災地が生まれています。

災害発生の都度設けられる「避難所」や「支援物資」はどのように変わっているのでしょうか？

COVID-19など感染症対策だけでなく、避難者に優しく支援者の疲弊軽減などの配慮なども変わっているのでしょうか？



防災・減災・備蓄について考える
機会や場を提供したい



逃げろ！

その時、多くの方々の手に防災バッグはありませんでした。
着の身着のまま、あってもハンドバック1つでした。

防寒着もなく...この後、津波で道路寸断、停電、降雪、避難所へ・・・

～写真提供：東海新報社～



GOOD DESIGN AWARD
2017年度受賞

地方創生SDGs
官民連携
プラットフォーム



私たちは持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。



『逃げた先にある安心。もしもの備え』



寒い避難所で物資を受け取るために何度も列に並び、食するときには冷めていた・・・
虚しい思いを避難者に繰り返さないでほしい...

『逃げた先にある安心。もしもの備え』は、自閉症の息子を持つ当施設代表の家族が東日本大震災の避難所生活で体験した経験から必要性を感じて商品化した防災備蓄食です。

その特徴は・・・

- ① 1人分の水・米がセットになっている
- ② 暖かいご飯が食べられる
- ③ 味付けはあえての「塩味のみ」なので、食物アレルギーの心配が少ない

とシンプルなものですが、その“あったかご飯”のこだわりと必要性で**グッドデザイン賞2017**を受賞しました。



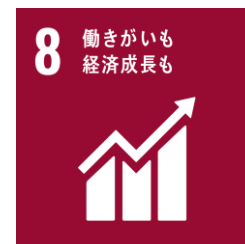
社会貢献は身近なところへ・・・

地震、水害など大規模災害があった直後の被災地支援、復興支援は「生きるため」、「人として」の人道支援なのでどんなに遠距離でも手を差し出すと思います。

しかし、企業としての日常の社会貢献活動は遠距離の復興支援だけでなく、企業（自分）の住む（働く）地元地域に感謝し、そこへ還元したい...と考えるのは当たり前です。

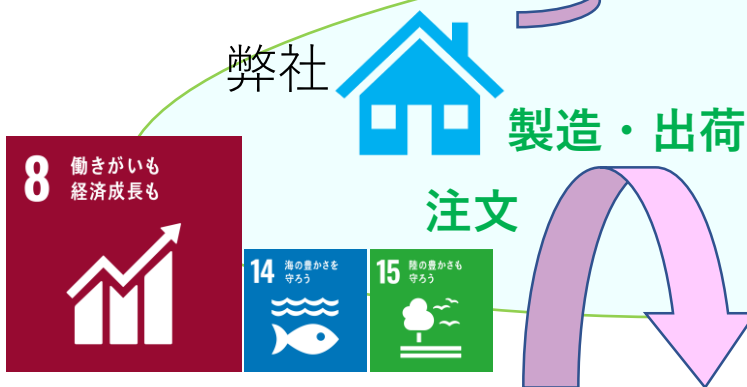
そこで、私たちが提案させて頂くのは・・・

- ①直接支援するのは地元地域や学校へ
- ②その支援物品を選ぶことが福祉貢献にも繋がるというダブル貢献のSDGsプロジェクトです。



「もしもの備え」を備蓄したり、教材として使用することが“2つ”の社会貢献に

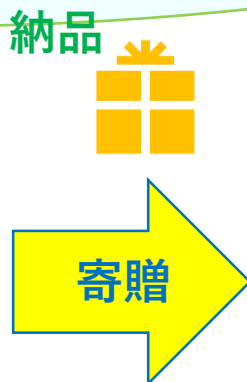
③原材料の農業等を支援



②障害者の就労活動を支援



※場合により使用説明などの現場応援も可能



地域の防災訓練
地元の小学校での防災教育
など

①地元地域へ「防災」の社会貢献・教育支援を…



御社



弊社



製造・出荷

注文

納品

寄贈



大船渡市立 赤崎中学校 での 体験学習会

大船渡市内の企業様が
・体験学習の教材
・防災備蓄食 を提供

弊社が商品の経緯や
作り方～試食迄を支援
しました。（継続中）



● 「持って逃げる」ではなく「逃げた先にある安心。」

防災リュックのある場所から避難することはありません。
家の物置、車のトランク、会社のロッカーetc.自分の居場所となり
そうな場所に最低限必要な物を備えるのが理想です。
グラッ、ドカーンなど“うわぁ〜”を慌ててしまうような時、高齢の
方、子どもと一緒にという時にいろんな物は持てません。
とりあえず安全な場所に逃げ、命を守った次に必要なのが食事。

● 安心な街＝いつまでも住み続けたい街に、御社の力を

「もしもの備え」は、地域の防災備蓄、防災教育への活用はもち
ろんですが、独居高齢者や障害者、子ども食堂や生活困窮者への
緊急食事支援などにも使用可能です。
いろいろな“もしも”の事態に備える「あったかご飯」なのです。

● 単発ではなく毎年、数年毎に継続貢献することが可能

対象地を変え、3～5年毎に入替えていくことで地元との繋がり、
障害者就労支援など御社のSDGs活動は継続されていきます

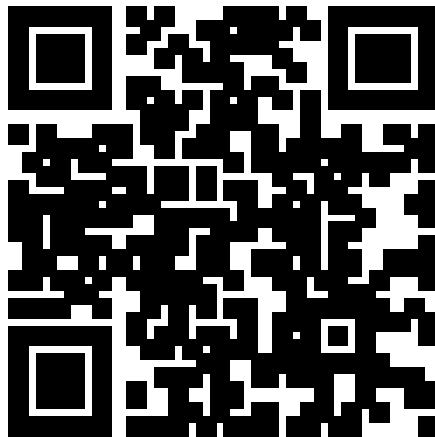


作り方動画は“YouTube”で
いつでもご覧頂けます

チャンネルタイトル

逃げた先にある安心。「もしもの備え」

<https://youtu.be/sFPIGWZlqzs>



追記：弊社について

- 所在地：岩手県沿岸南部 大船渡市
- 活動内容：障害者の就労支援施設（作業所）
- 活動の歴史：H5～障害児を持つ親が子育ての情報交換や気分転換のお茶会を始める、H13～任意団体として農業、革細工、イベントなどの定期活動を開始、H17～活動拠点の作業所を構える、H21～NPOなど法人化の準備を開始、H23.3.11 東日本大震災で作業所、代表者自宅などを流失し活動停止、H24～メンバー家族から活動再開の要望が増え、H25～一般社団法人格を取得し、B型作業所として指定認可を受ける。現在40名が通所。
- 作業内容：農業および6次化商品の企画、製造、販売（缶詰・レトルトなどを中心）、受託作業（内職系）、施設外就労（養殖水槽の清掃、草刈りなど）、防災や減災に関する活動（備蓄や動機づけなど）